



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第48号

2008.1.10

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」の名前をつけています。

もくじ

お知らせ

- －「自然賛歌」で西中国山地自然史研究会の観察会を紹介
- －冬季閉館について
- －八幡湿原自然再生工事が進行

活動報告

- －八幡高原の冬鳥
- －越冬する樹木の姿
- －冬の工作「小鳥を呼ぼう、かんじきで歩こう」

観察会案内

- －アニマルトラッキング
- －スノートレッキング

今後の観察会予定

- 1月20日 アニマルトラッキング
- 2月17日 スノートレッキング
- 3月9日 スノートレッキング

お知らせ

●「自然賛歌」で西中国山地自然史研究会の観察会を紹介

1月31日（木）19：54からの広島ホームテレビ『自然賛歌』で西中国山地自然史研究会の観察会「紅葉の山でゴギの産卵観察会」が紹介されます。ディレクターの岩崎さんによると、「産卵シーンもバッチリ」だそうです。どうぞご覧下さい。

●冬季閉館について

冬季閉館中の連絡先は、次のとおりとなります。観察会の申込み等にご利用ください。

メール：staff@shizenkan.info（これまでどおり）

電話：0826-72-0864

（北広島町教育委員会 生涯学習課）

ファックス：0826-72-0608

（北広島町教育委員会 生涯学習課）

●八幡湿原自然再生工事が進行しています

環境省が補助し、広島県が行う「八幡湿原自然再生事業」の工事が二川キャンプ場の近く、霧ヶ谷で進んでいます。今は、補助導水路がほぼ掘り終えられて、今年度の最終形になったところです。これから事業地はどんどん姿を変えていきます。冬はどうなっているんでしょうね・・・？

観 察 会 報 告

● 八幡高原の冬鳥

開催日時：2007年12月2日（日）8:00

講師：上野吉雄

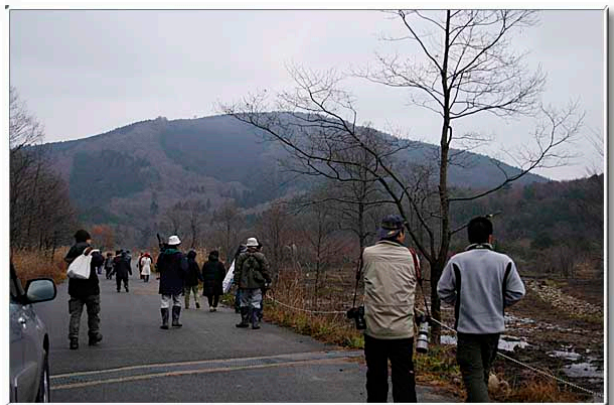
「今年は暖かいので、まだ来ていない鳥もいます」と、ここにも温暖化の影響がでていような始まりでした。ツグミがツルウメモドキを群れでついばんでいるところから始まり、今年は液果類が多く、木の実の赤は植物が鳥に食べてもらって種子散布に協力してもらうための説明がありました。マヒワの群れはキハダやスギの実に群がり、向きを変えるとヤマガラ・エナガ・シジュウカラの混群。群れることにより、ハイタカなどにねられるリスクを少なくするということでした。実際にハイタカが現れるとエナガが警戒声を発して小鳥たちは散り散りでした。さえずっているホオジロは留鳥で、その他渡りで越冬に来ている群れもあり、いろいろだそうです。自然再生事業の進む霧ヶ谷では残念ながら、お目当てのマシコ類を見ることはできませんでしたが、草原生のオオジシギの話など、再生による変化について興味深い話を聞くことができました。大歳神社付近に移動して、タシギ・カワラヒワ・コガモを見ることができました。社そう林ではノスリが徘徊しているので、小鳥が近づかず、カシラダカなどは見ることができませんでした。新川ため池ではアカマツでコゲラ・キクイタダキが虫をついばんでいる様子が観察でき、溜め池にはコガモがす～いす～いと浮かんでいました。時間もゆったり、環境のちがう4カ所でそれぞれ観察ができてみなさん楽しめたのではないのでしょうか？[や]



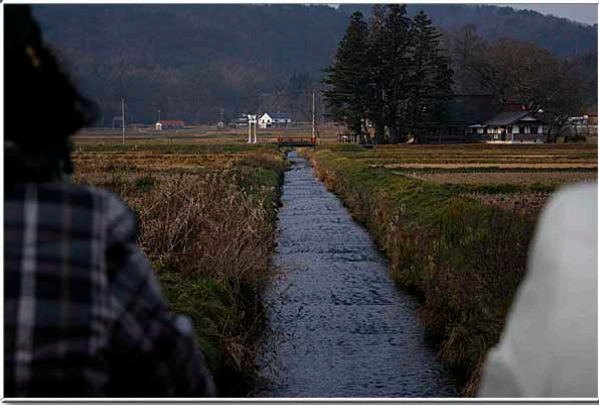
自然館裏のパークゴルフ場で、いつものまにか観察会が開始。いつもなら、指さす方向にレンジャクの群が見えるのだけど・・・。



駐車場で、あらためて観察会を開始。オオアカゲラが見えた。



ひとしきり、自然館のまわりで観察した後、霧ヶ谷湿原に移動した。湿原に変われば、オオジシギが戻ってきてくれるかも！？



次にやってきたのは八幡盆地の中の水田。水路ではコガモが群れていた。

【みなさんの印象に残った物】

「鳥の習性の話」「鳥と植物の関係の話」「ノスリ (2)」「オオアカゲラ (4)」「鳥の食性「木の实」」「タシギを初めて見た」「ツグミ、マヒワの数の多さ」「群れで飛ぶ冬鳥」「ノスリ、ハイタカに出会えたことです」「ノスリが悪い鳥なのだと思った。一羽居ることによって他の小鳥が姿を見せない」「鳥類の通常の鳴き声と警戒声の違い。ハイタカ出現の際によく分かりました。」「オオアカゲラのように背に白斑がないのに頭頂部の大半が赤くなっている個体が観察できたこと」「タシギ」「鳥の食べものについての説明」「アカゲラ、沼のカモ」「オオアカゲラを初めて見ました (3)」「混群が見られた事 (2)」

【参加したみなさんの感想 (抜粋)】

「先生の説明がとてもわかりやすく参加して良かったです」「上野先生の話がとてもわかり易くよかった」「いろいろな鳥が見られてよかったです」「木の実の説明は嬉しかった」「温かいので冬鳥がすくなくった様」「とても勉強になりました」「視覚聴覚を使い感性をとぎすまされた感じでよかった」「寒かったけど楽しかった」「的確な説明で、鳥をよく理解できた」「この環境を残したい」「楽しい時をすごせました」「寒い寒いの一言」「様々な環境に生息する鳥が観察できて楽しかったです」「里よりもやはり寒いですね。もう少し防寒対策してきます」「色々な知識を教えていただき楽しかったです。」「植物と鳥の食生活のありがたがよくわかりました」「上野先生の説明はわかりやすくよかったです。」「思ったより鳥が見れたのでよかった。ノスリが見れてよかった」「鳥の食べ物を多く教えて頂いたので今後は鳥と草の両方に目を向けて観察します」「去年は見る事ができた鳥がいなくて、やはり暖かい年なのだと思います。」「冬はあまり出かけないけど動物も植物も静かに活動していて、そういうことに気付くことができて良かった。」「春の観察会も来たので違う鳥を見れてよかった」



続いて訪れたのは尾崎谷。あれ？別のものを見ている人がいますよ...



堰堤で、本日のまとめをした。

観 察 会 報 告

● 越冬する樹木の姿

開催日時：2007年12月2日（日）13:00

講師：斎藤隆登

午前中のバードウォッチングから、引き続き参加の方が多く、17名の観察会です。まず、先生が予め採取されたミヤマウメモドキとウメモドキの果実の枝を示され、ミヤマウメモドキは果柄が有り、ウメモドキは枝に密着したように実が付いている事を説明されました。よく分からない時は生えている環境、湿った所であれば、ミヤマウメモドキでしょうと言われ、識別が難しい時はいろいろの事から判断しないといけないようです。そして、千町原・自然館周辺でよく見られるノイバラとミヤコイバラの果実を示されました。果実の下の茎に腺毛がないのがノイバラ、腺毛が有るのがミヤコイバラと、ルーペを使ったりしながら、どこかわからず「いや～難しい」とか「おぼえきれるかしら」などと、隣の人と話し合っただけで観察しました。コナラは小さい芽がたくさん付いていて皮の重ね着、芽鱗（がりん）にくるまっている冬芽。コブシの花芽はふかふかの毛付きのコートのような芽鱗を付け、葉芽の方はそれに比べると毛のない皮で「付け根からぐるっとぱかっと芽鱗が取れる」そうです。その他ナナカマドの芽鱗痕と枝の伸び方。ウツギの星状毛。アズキナシの冬芽はカマツカより、ふっくらしているとか、ツノハシバミの雄花、エゴノキの二段構えの大小二つの冬芽（予備はいらないと落ちる）リョウブの波打ったような枝振り、ミズキの赤い枝、サワフタギには毛があるなど、次々に観察していきました。サルナシは葉痕の上の中に冬芽が隠れているとか。タカノツメとコシアブラは維管束痕（いかんそくこん）が7つと11の違いとか。その他にもコバノガマズミやヌルデ・ヤマボウシ・ミズメ・ザイフリボクの話があり、やっぱり覚えきれないほど内容の濃い観察会でした。[や]



駐車場でコナラを観察。



よく観察すると、いろんなことが見えてくる。



綿毛をかぶって、暖かそうなコブシの冬芽。



今回の観察会では、とにかくメモを取ることが重要.



ヤマボウシの枝の出し方について説明する斎藤先生. ヤマボウシは、5つの方向に枝を出す.



斎藤先生手描きのスケッチを見ながら、カンボクを観察.



先生の手元に、興味津々.

【みなさんの印象に残った物】

「ヤマボウシの枝」「冬芽にいろいろあることが分かった」「なるほど（初心者）」「冬芽や枝に毛があるなしで全然違う木である事がわかりました.」「木の葉を落とした樹木を見るのも楽しいものでした.」「ちょっとむずかしい」「キツネの様なツノハシバミ」「冬芽の美しさ」「エゴノキの冬芽が2段がまえになっていたこと副芽?」「色々奥深く芽の美しい色」「冬芽の出方の違い」「枝ののびかた」「ツノハシバミの実」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「枝の伸び方や冬芽から樹木のいろいろな戦略が分かっておもしろかったです.」「毛がついていたり、ハチマキをしていたり、いろいろ工夫して新しい命を守っているんだとよく分かりました.」「知れば知る程 奥行きはほど遠し.」「新しい事を沢山教えて頂いたがとっても有意義な事でした.」「とても寒かった.」「樹木は日頃よくわからないのですが、野鳥の観察をやっているの鳥の食生活と云うことで、わかるといいと思い参加しました.」「初めての冬芽観察会良かった. ルーペを忘れたのが残念.」「樹木ごと いろんな冬芽があって冬を越していくのだなあと感じた.」「まだまだお勉強します.」「見方がいろいろあって楽しいなと思いました.」「越冬する樹木の（芽）がよくかんさつできた.」「花の時期とはちがったおもしろさでした.」「ていねいに教えていただいてありがとうございました. 資料をたくさんもらって感動しました.」

観 察 会 報 告

● 冬の工作「小鳥を呼ぼう、かんじきで歩こう」

開催日時：2007年12月9日（日）10:00

講師：暮町昌保・坂井健作

初めに鳥の巣箱作りの4名とかんじき作りの8名に分かれてそれぞれの先生に教わりながらの始まりです。巣箱は夫婦2組。まず、すでにできあがった巣を参考に先生の説明を聞きながら、図面を基に、サイズを記入します。久しぶりのノコ使いのためか、なかなか思うようにいかないようです。組み立て釘打ちも、先にドリルで穴を空けていてもうまい具合に打てなかったりと悪戦苦闘の様子でした。先生の親切な直しもあつたりとどなたも満足(?)な仕上がりのようでした。後は巣箱設置を設置するだけです。家でバードウォッチングがなるか？

かんじきはすでに木を曲げた状態までは準備され、左右上下を確認の上、思い思いに輪を選びました。そして8mに切ったロープ2本を用意します。まず右足から作りました。ロープは中央で折り、つま先部分にまず掛けて縦横渡します。男結びなるものが、なかなか難しく、先生の手元を確認しながら、左右にもロープを張り、わいわいう〜んと悩みながら片足完成！左は自分で、と言われると、参加者からは「え〜」の悲鳴。先生には親切に教えていただきました。巣箱作り組と交代して、後は雪が降るのを楽しみに待つのみです。このかんじきを作る事を八幡では「さなぐ」というそうです。人によってさなぎ方がちがうということですが、地元でもさなげる人が少なくなっているそうです。貴重な体験でした。[や]



鳥組は、まずは板を選ぶところから。



切断線を書いていく。



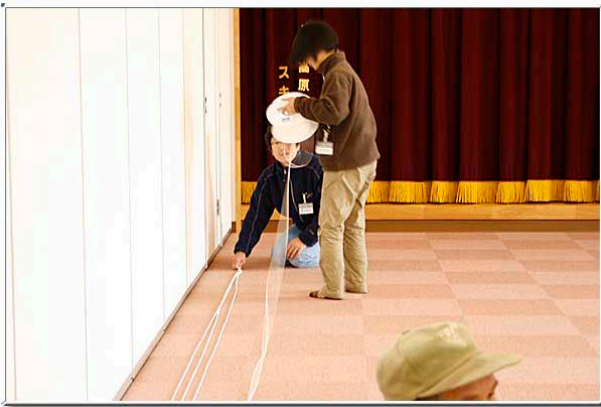
暮町先生から細かい指導が入る。



輪組は、坂井先生が作った見本を解いてみる。



足に合わせた木を選ぶ。



ロープを測って、切るところからはじめよう。



自分のロープをゲット。

【みなさんの印象に残った物】

「おとこむすびがむすかしかつたけど覚えられて良かった」「簡単そうでむすかしい」「かんじきがヒモの働きで固定、頑丈になること。先人の知恵」「男結び」「さなぐ」「かんじきをつくったこと」「ワ作成」「むすんだこと」「かんじきをつくるときまいたりするところ」「巣箱づくりで50年ぶりに体験。クギ打ちに苦労しました」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「作業より頭の体操というかんじでした。」「楽しかった (2).」「子が喜んで作っていた。さぞうれしいのでしょうか。」「自分の「輪」ができてうれしいです。」「雪国の知恵の深さを知った (身近な材料を使って).」「むすかしかつたけど、おもしろかった。」「大変興味深く良かった。」「むすかしかつたです。」「童心にかえりました。」「子どもが少なくて残念でした。地元の先生というのがよかったです。」「スノートレッキングが楽しみです。」「わらぐつ or わらじの作成を。」「他にも色々考えて下さい。」「雪山はいくのがたのしみです。」「またやってください。」

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳
作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● アニマルトラッキング

開催日時：2008年1月20日(日) 10:00
集合場所：高原の自然館
講師：上野吉雄
準備：基本セット、弁当、スノーシュー・歩くスキーなど
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円)

雪原を歩きながら、動物たちの足跡や食痕を見つけ、冬にはどんな動物がどのように活動しているのかを観察します。小さな昆虫が雪上にいたり、木の実が入ったフンがあつたりし冬でも動物たちの姿を感じることができます。雪の上を歩ける格好でお越し下さいね。

● スノートレッキング

開催日時：2008年2月17日(日) 10:00
集合場所：高原の自然館
準備：基本セット、弁当、スノーシュー・歩くスキーなど
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円)

雪の草原を歩きましょう。寒い中、みんなであるくとたくさんの発見があるかもしれません。あたたかい飲物などを持参し、ご参加下さい。

－ インターネット版苅尾電波塔の紹介と購読移行のお願い－

苅尾電波塔はインターネットを利用した e-mail でも発行されています。印刷版と同じ情報が毎月あなたのメールアドレスに届きます。さらに e-mail なら、関連ホームページを見たり、そのまま返事することで観察会の申し込みができたり、とっても便利です。パソコンで e-mail をお使いの方ならどなたでも無料で申し込みができます。まずは高原の自然館ホームページをご覧ください。

高原の自然館ホームページからは、苅尾電波塔(紙版)の pdf ファイルをそのままダウンロードできます。郵送している紙版に比べ、鮮やかなカラー写真を見ることができ、ダウンロードしたファイルはご家庭のプリンタを使って印刷することもできます。そこで、高原の自然館では紙版(郵送)からインターネット版への購読移行をお願いしています。今後、紙版の郵送が不要な方は、高原の自然館までご連絡ください。みなさまのご協力をお願いいたします。

【高原の自然館】<http://shizenkan.info/>

先日、通勤のために坂道を下っていると、車が大きく滑りました。ブラックアイスバーンの怖さを知った朝でした。平年なら恐る恐るゆっくりと下る坂道も、雪が無いことで安心していました。ラニーニヤの影響で大雪になるという予報は、芸北には当てはまらなかったのでしょうか?ともあれ、雪が積もっていても無くても、芸北にお出かけの際は十分にお気をつけください。

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先(ご意見・ご感想もお待ちしております)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1
tel. & fax : 0826-36-2008
<http://shizenkan.info/>
staff@shizenkan.info